



5 復旧に向けて

- 1) 復旧事業の実施経過
- 2) 恒久的な止水対策と取り組み
- 3) 放射線機器関係
- 4) 地域への情報発信
- 5) 地域支援活動
- 6) 振り返り、反省、課題
- 7) お見舞い、寄附

復旧に向けて

法人管財部部長 椎名 亨

1) 復旧事業の実施経過

(1) 初期対応（10月13日～10月14日）

10月13日朝より、復旧作業に着手しました。各部署において緊急連絡を実施し、復旧に向けた初期対応への参加を求め、多くの職員が参加しました。また、当院の建設に関わった鹿島建設(株)を中心に日頃取引のある建設、機械設備、電気設備等の企業に支援要請を行いました。多くの医療機器が浸水により使用不能になった放射線科では、それぞれの機器の納入業者やメンテナンス業者等に協力を要請し、溜まった水の掻き出しや機器の状態把握など初期対応を行いました。全体的な応急対応の目標として10月15日の外来診療再開を目指しました。

(初期対応の内容)

- ・施設内各所に溜まった泥水の掻き出しと清掃作業、消毒作業
- ・浸水したパソコンや通信機器、家電類やその他の備品類の撤去
- ・待合の椅子や診察台、什器類などあらゆる備品の清掃消毒作業
- ・二重床（OAフロア）部分に溜まった泥水のポンプによる吸出しと清掃、消毒
- ・泥水を含んだ床カーペットの撤去
- ・医療機器の被害状況の確認と対応の検討
- ・エレベーターの復旧作業
- ・電話、LANなど院内通信システムの復旧作業

(2) 復旧計画（令和元年10月～令和2年9月予定）

初期対応後、当院の建設に関わった鹿島建設(株)と(株)日建設計とともに、改めて水害の被害状況を確認し、甚大な被害を受けた建築面や設備面の問題点や改良すべき点の洗い出しを行いました。現状の機能回復や復旧を行った上で、将来同規模の水害が発生しても耐えうる水害に強い施設づくりに向けた止水対策工事を含む総合的な復旧計画を立案しました。

医療機器は放射線機器を中心に甚大な被害を受けたため、すみやかな修理と修理不能な機器についての更新手続きを進めました。

(復旧計画の内容)

- ・建物、設備、医療機器、通信機器、その他什器備品の原状復旧工事
(壁、床の作り替え、医療機器の修理・更新、備品の更新 等)
- ・水害に強い施設作りのための恒久的な止水対策工事

(医療機器の復旧)

- ・迅速な修理対応を進めるとともに、修理不能な機器に関しては、現場主導で新たに機種選定を行

い更新手続きを進めました。

- ・MRI、CT（2台）、透視撮影装置（2台）は、入替えに日数を要するためそれぞれ代替え装置を設置し対応しました。
- ※CTと透視装置は代替え機種を一時的に購入し対応しました。MRIはトレーラー車載型を3か月間借用し対応しました。
- ※透視装置は、代替え機種設置まで検診バスを借用し対応しました。
- ・令和2年3月9日のMRI新機種稼働開始をもって、医療機器の修理・更新が全て完了しました。



MRI搭載車



胃透視検診バス（福島県労働保健センター）

（復旧事業の予算）

- ・建物、設備、什器備品等の原状回復工事 約14.6億円
 - ・医療機器の原状回復工事 約3.3億円
 - ・恒久的な止水対策工事 約4.6億円
- 合計約22.5億円

（3）被災当日の取り組み

復旧工事にあたっては、厚生労働省が定める「医療施設等災害復旧費補助金」の申請を行いました。補助率は対象事業費の1/2でした。

※補助金の詳細な内容が正式に決定されるまで日数を要したため、医療機器の修理や更新など迅速な初期対応が難しい面もありました。

（4）保険金の申請

当法人で加入していた東京海上日動火災保険に対して、今回の水害に係る損害への保険金を請求しました。